

# 令和6年度 園自己評価・学校関係者評価報告書

令和7年3月31日

学校法人 吉祥学園  
認定こども園 水沢こども園

## 1. 【本園の理念、教育・保育目標、教育・保育方針】

○理念 たくさんの経験、活動を通し、他を思いやる気持ちを育て、又、ひとりひとりがより良く強く生きる力、意志を持つように育てる

○教育・保育目標

- ・じょうぶな子…健康で明るく元気なたくましい子を育てます
- ・がんばる子…遊びに意欲をもって取り組み、試したり工夫したりしながら、最後までやり通す力を育てます
- ・やさしい子…友達との遊びの中で様々な体験をし、思いやりと豊かな感性を持つ子を育てます

○教育・保育方針

- 1 発達段階に応じた環境を整え、興味や関心を広げ、心情、意欲、態度等生きる力の根底となるものを育て、就学に接続し小1プロブレム等が生じないようにしていきます
- 2 家庭と連携し、保護者の家庭での養育力の向上を支援します
- 3 専門性を生かして、教育と保育の一体的なあり方を実現します
- 4 地域の人と共に子育て支援を実施します

## 2. <本年度の重点的な目標・計画>

「質の向上につながる保育現場の見直し」

3歳以上児職員：テーマ「質の向上につながる保育現場の見直し（教育・保育の観点から）」

3歳未満児職員：テーマ「質の向上につながる保育現場の見直し（安心・安全の観点から）」

## 3. <本年度の重点的な目標・計画の評価結果>評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	「質の向上につながる保育現場の見直し」	A	本園において当たり前に行われている保育業務について全職員で見直すことにより保育の質の向上を図っていく。 (現状を把握し、意見交換を重ねることでより良い保育へつなげていく)
2	3歳以上児職員：  テーマ「質の向上につながる保育現場の見直し（教育・保育の観点から）」	A	3歳以上児  ・研究の進め方について話し合う ・テーマについて意見交換 ・テーマをもとに保育の振り返りをする ・保育を振り返り再度テーマの共通理解を図る ・資料、テキストをもとに意見交換（7月～11月） ・保育の在り方について再度共通理解を図る ・この研修を通して学んだことを出し合う ・先月話し合った内容についてまとめた資料を基に話し合いを行う また、研修で学んだことについて話し合う（まとめ） ・成果と課題をあげる

<p>3歳未満児職員：</p> <p>テーマ「質の向上につながる保育現場の見直し（安心・安全の観点から）」</p>	<p>A</p>	<p>3歳未満児</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園内研修の進め方について話し合う</li> <li>・新入園児・気になる子ども・アレルギーのある子どもの共通理解と健康チェックについて</li> <li>・個人面談の報告と、それをふまえた今後の保育の進め方について話し合う</li> <li>・保育現場の見直し</li> <li>・誤嚥・SIDSについての再確認</li> <li>・熱中症対策について</li> <li>・水遊びの際の事故防止、安全な環境づくりについて</li> <li>・危険予測のトレーニング（プール）</li> <li>・災害の備えと危機管理について</li> <li>・遊びの振り返り</li> <li>・冬の戸外遊び・雪遊びの際の安全対策について</li> <li>・感染症対策・嘔吐処理について</li> </ul>
---	----------	---

評価（A・・・十分に成果があった B・・・成果があった C・・・少し成果があった D・・・成果がなかった）

#### 4. <総合的な評価結果>具体的な目標や計画の総合的な評価と本年度の重点的な目標・計画の評価

評価	理由
<p>A</p>	<p>&lt;成果&gt;</p> <p>○保育現場で当たり前のようになっていることについて、一人一人が振り返ることにより、子どもの成長にとって何が必要なのか、なぜ必要なのかあるいはこれは本当に必要なのかということについて考えるきっかけができた。</p> <p>○考える機会があったことで、マンネリ化していたことを整理することができ、職員一人一人がより子どもの最善の利益という観点から保育を考えようとする姿勢が見られている。</p> <p>○子どもの命を預かる上で安心・安全な環境を整えることは当然のことである。持続的にその環境を整えていくため研究を活かしながら、改善点があれば改善していこうという視点を高め合うことができた。</p>

評価（A・・・十分に成果があった B・・・成果があった C・・・少し成果があった D・・・成果がなかった）

#### 5. <今後取り組むべき課題>

今年度途中から保育業務の一部をICT化してきた。徐々に軌道に乗り始めているので、業務の効率化によってできた時間を保育の質の向上のために取り組んでいくことが必要である。職員間での意見交換もなかなか時間が取れない中で行われているが今回の研究により、子どもの最善の利益という観点を職員一人一人が持つことができるように質が向上してきているので、各自自分事として引き続き保育を捉えながら研修を続けていきたい。

安心・安全な環境については、引き続き情報をアップデートしながら保育現場に活かしていくようにする。

また、保育の捉え直しを行ない、子ども達が次世代に必要な力を身に付けていけるための保育のあり方を学んでいくことが必要である。

#### 6. 学校関係者評価委員会の評価

① 園自己評価の結果の内容は適切である。

園評価の結果を踏まえた今後の改善方策は適切である。

重点的に取り組むことが必要な目標や計画、評価項目等は適切である。

学校運営の改善に向けた取組も適切である。

② 適切に評価されています。目標・計画ともに成果を感じているようですので、今後も職員の方々で情報等共有しながら日々教育・保育していただければと思います。

③ 適切に評価されております。

④ 園の自己評価の結果や取組み等、適切に行われていると思います。